

2020年12月8日

**公益財団法人みちのく未来基金**  
**代表理事および業務執行理事業務報告**  
(報告対象期間:2019年10月~2020年9月)

**【奨学金給付事業関連】**

**1. 奨学金の給付状況**

第2期生から第9期生までの奨学生に対し、奨学金の給付を実施いたしました。

**① 給付人数**

第9期給付対象人数および第10期生の給付申請状況は以下の通りです。

◆第9期給付対象者数 (単位:人)

	合計	岩手県	宮城県	福島県	3県以外
合計	314	100	168	18	28
国公立大学	32	12	16	0	4
私立大学	213	67	116	14	16
短大・専門学校	69	21	36	4	8

**【内訳】**

		合計	岩手県	宮城県	福島県	3県以外
合計	2期生	1	0	1	0	0
	3期生	1	0	1	0	0
	4期生	6	4	2	0	0
	5期生	10	4	6	0	0
	6期生	69	22	37	3	7
	7期生	60	18	35	4	3
	8期生	80	27	39	6	8
	9期生	87	25	47	5	10
	国公立大学	2期生	1	0	1	0
3期生		1	0	1	0	0
4期生		0	0	0	0	0
5期生		3	1	2	0	0
6期生		7	4	2	0	1
7期生		5	3	2	0	0
8期生		7	1	4	0	2
9期生		8	3	4	0	1
私立大学		2期生	0	0	0	0
	3期生	0	0	0	0	0

	4期生	6	4	2	0	0
	5期生	7	3	4	0	0
	6期生	58	17	33	3	5
	7期生	48	12	29	4	3
	8期生	47	18	22	4	3
	9期生	47	13	26	3	5
短大・専門学校	2期生	0	0	0	0	0
	3期生	0	0	0	0	0
	4期生	0	0	0	0	0
	5期生	0	0	0	0	0
	6期生	4	1	2	0	1
	7期生	7	3	4	0	0
	8期生	26	8	13	2	3
	9期生	32	9	17	2	4

※2020年9月末現在

2020年9月末現在、第2期生から第9期生まで、奨学金給付を行っている人数は上表の通りで、合計314名です。なお、2019年9月から2020年9月末までに、自主退学等の理由により、10名について給付を停止しました。

**基金発足時から2020年9月末現在、第1期生から第9期生までの延べ給付人数は901名です。**

	合計	岩手県	宮城県	福島県	3県以外
合計	901	305	485	56	55
1期生	96	36	53	6	1
2期生	126	37	79	6	4
3期生	111	46	50	10	5
4期生	104	31	63	2	8
5期生	93	37	43	8	5
6期生	108	40	51	6	11
7期生	89	24	55	7	3
8期生	85	28	43	6	8
9期生	89	26	48	5	10

[第10期給付者数見込み]

第10期については2021年3月に94名が卒業予定で、第10期生としての進学希望者が80名いるため、第10期の給付者数は最大で300名となる見込みです。

## ② 給付予定金額

第10期奨学金給付予定金額

第2期生への年間給付予定金額 1,000千円

第3期生への年間給付予定金額	1,000千円
第4期生への年間給付予定金額	1,000千円
第5期生への年間給付予定金額	8,000千円
第6期生への年間給付予定金額	4,000千円
第7期生への年間給付予定金額	57,000千円
第8期生への年間給付予定金額	61,000千円
第9期生への年間給付予定金額	88,000千円
第10期生への年間給付予定金額	117,000千円
給付予定金額総計	338,000千円

第10期の給付予定金額は338,000千円になる見込みです。この約3.4億円の試算をベースに年間の資金繰りを行ってまいります。

## 2. 第10期生の募集状況

2020年4月より、第10期生の募集を開始いたしました。

### ◆第10期奨学金給付希望者数（単位：人）

	合計	岩手県	宮城県	福島県	3県外
合計	80	22	51	4	3
国公立	9	2	7	0	0
私立	46	13	28	2	3
短大・専門	23	6	15	2	0
志望校未定	2	1	1	0	0

※上記の表は9月末時点での奨学金給付希望者で、合格後に奨学金の給付が開始されます。

基金の調査では、2021年春高校卒業予定の震災遺児は93名で、そのうち進学希望者は73名です。また、2020年春以前に高校を卒業し、現在浪人中の進学希望者が7名いるため、第10期生としての奨学金給付希望者数は合計80名となります。

## 3. 第11期生以降の対象者の把握

厚生労働省が2015年9月時点の震災遺児の居住地状況を把握したデータから、全国の震災遺児の総数は1,782名（うち岩手・宮城・福島の前被災3県以外は171名）となっており、基金で独自に被災3県をはじめ、全国の該当する行政窓口、教育委員会、中央共同募金会（赤い羽根）等、様々な機関へのアプローチを実施した結果、第11期生から第20期生まで合計373名（うち3県以外は31名）について、支援予定者として把握いたしました。

## 4. 選考委員会の開催

内閣府の公益法人（助成型）の認可要件として、奨学生の認定について公平性・公正性の担保という観点から選考委員会の設置が求められております。これに基づき以下の様に選考委員会を開催いたしました。

## 「第 10 期生選考委員会」

2020 年 8 月 29 日(土) 11:00~12:30 (於:ホテルメトロポリタン仙台 桃李)

### ・出席委員

杉 昭重 元福島県教育委員会教育長 ・ 元福島県立安積黎明高等学校長  
庄司 恒一 元宮城県高等学校長協会会長 ・ 元宮城県仙台第二高等学校長  
横田 昭彦 元岩手県立高田高等学校長

### ・事務局

長沼孝義、竹中俊之、嶋瀬紀子、北川宣人

第 10 期奨学金給付対象者(2021 年 4 月からの奨学金給付開始者)について、東日本大震災の遺児であることの確認、および進学先の承認を諮り、異議なく承認いただきました。

## 5. 年次面談の実施

2019 年 9 月から 11 月にかけて、東京・仙台・盛岡の 3 会場において、奨学生全員との面談を実施いたしました。この面談は、基金スタッフが全ての奨学生の話聴ける年に一度の機会であり、学生生活の様子や困りごとなどを聴き、奨学生の心のケアにつなげることを目的に、基金のもっとも重要な活動となっています。待合スペースにおいて奨学生同士が交流するとともに、サポートスタッフとして多くの奨学生が協力し、資料記入の案内や待合いでの声掛けなどを進めてくれました。

また、2020 年 9 月には東京会場での面談を行いました。新型コロナウイルスの影響をふまえて対面とオンラインとの併用とし、奨学生の希望に沿った形式で実施いたしました。

## 6. 「第 9 期生の集い」

2020 年 3 月 13 日から 15 日にかけて、「みちのく未来基金 第 9 期生の集い」を実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染が拡大しつつある中、みちのく生やサポーターの皆様の健康を一番に考え延期することにいたしました。

夏ごろに開催が可能になると考え、8 月 21 日~23 日の 3 日間会場を押さえ準備を進めてまいりましたが、未だに終息の見込みがない事から中止することを決定いたしました。

来年の 3 月に「第 9 期生の集い」と「第 10 期生の集い」を合同で開催する方向で準備に入っております。

## 7. 夏の交流イベント

奨学生同士の定期的な交流促進のため、2020 年 5 月 23 日(東京)同 30 日(仙台)にバーベキューイベントを、また 8 月 17・18 日には「夏の集い」を仙台郊外で実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止することになりました。

## 8. みちのく未来基金 SNS の活用

2012 年 3 月より、奨学生同士の交流促進を目的に、専用のソーシャルネットワークサイトを開設していました。しかし近年奨学生の「メール離れ」が加速しており奨学生とスタッフがメールで意思疎通を図ることが難しくなってきました。そこで奨学生と確実にコミュニケーションを取れるように 2020 年 9 月に「SNS アプリ」を奨学生との連絡ツールとして新たに導入いたしました。

## 【法人運営関連】

## 9. 寄附金受入状況

## 寄附金内訳(第9期2019年10月1日～2020年9月30日迄累計)

	金額(千円)	金額比率	件数	件数比率	人数・ 法人人数等	人数・ 法人人数等比率
個人	112,831	30.9%	10,898	94.5%	1,861	86.7%
法人・団体	251,958	69.1%	638	5.5%	285	13.3%
計	364,789	100.0%	11,536	100.0%	2,146	100%

基金発足時から2020年9月30日まで、通期では約48億円の寄附が集まっている状況であり、スタッフ派遣企業4社を除いても約39億円の寄附をいただいております。第9期は9月30日までの1年間で約3.6億円の寄附をいただきました。

※大口寄附については別紙①に記載。

### 10. 第9期決算

※第1号議案にてご説明いたします。

### 11. 広報活動

#### ・「みちのく未来通信」の発行

寄附者や奨学生等の基金関係者に対して、みちのく未来基金の現状をお伝えする広報紙「みちのく未来通信」を、2020年1月(第24号)、2020年5月(第25号)、2020年9月(第26号)を発行し、今後も年間3回の発行を継続いたします。

#### ・基金ホームページの改訂

基金のホームページについては随時改訂を行っております。

#### ・Facebookの利用

月1～2回の頻度で記事の更新を行い、閲覧回数を増やすようにしております。奨学生の閲覧も多く、交流が深まるきっかけともなっています。

### 12. その他特記事項

#### ①サポーター企業・団体への訪問

代表理事を中心にスタッフ総出で、継続してご支援いただいている企業・団体を訪問し、御礼とともに活動状況をご報告しており、第9期においては、2020年9月末までに17社を訪問いたしました。新型コロナウイルスの影響で、3月以降は訪問できておりません。

訪問時には、「寄附がどう使われているのか実感を持たせた」「これからも支援していきたい」とのお言葉をいただきました。

また高額の寄附を頂戴している企業18社(個人1名含む)に対しまして、減額のお願いに伺いました。各社のご協力により、約1億5千万円の減額となりました。

#### ②将来のみちのく生

岩手・宮城・福島県の行政や中央共同募金会・あしなが育英会の協力により、新たに33名の将来のみちのく生情報を入手することができました。

#### ③「感謝の集い」の企画

2020年10月でみちのく未来基金の活動が10年目を迎えるにあたり、設立から現在に至るまで

活動を支えてくれた方々を招待し、「みちのく未来基金 10 年目の感謝の集い」を 2020 年 10 月 25 日に東京・品川で開催することを決定し準備を開始しておりましたが、新型コロナウイルスの影響により 1 年延期することといたしました。来年 10 月 24 日(日)に開催する方向で進めております。

#### ④寄附に関する研究

みちのく未来基金がサポーターから長期に支援される理由を研究し、基金活動の成果と、今後必要に応じて社会貢献活動を行う団体にも提供可能な情報とすべく、寄附研究の専門家(宮城大学石田准教授他)の協力のもと、支援企業 13 社へのヒアリング調査を行い、結果をまとめました。

#### ⑤基金スタッフの働き方の変更

新型コロナウイルス感染防止を目的に、マスク着用と検温の実施と合わせ 2020 年 4 月よりスタッフの交代出勤、在宅勤務、時差出勤を行っています。

### 13. みちのく未来基金の運営スタッフ体制について

2020 年 9 月末現在のみちのく未来基金事務局のスタッフ構成及び業務担当は以下の通りです。

#### <みちのく未来基金事務局>

長沼 孝義	: 代表理事(全体責任者)
竹中 俊之	: 業務執行理事(業務統括)
佐藤 美甫	: 内務業務(総務経理事務)
齋藤 雅子	: 内務業務(奨学金管理)
武田 康嗣(カゴメ株式会社)	: 学校訪問(岩手県担当)
嶋瀬 紀子(カルビー株式会社)	: 学校訪問統括(石巻・気仙沼・県外担当)
小野 大騎(カゴメ株式会社)	: 内務業務統括(会計・奨学金管理)
北川 宣人(エバラ食品工業株式会社)	: 学校訪問(福島県・仙台市外担当)
原田 直信(ロート製薬株式会社)	: 内務業務(寄附金管理)
奈良 朱里(ロート製薬株式会社)	: 学校訪問(仙台市近郊)
伊藤 健人(カルビー株式会社)	: 内務業務(奨学金管理)

以上